

甌島列島と奄美大島から得られた鹿児島県初記録のハタ科魚類ハナスズキ

中村潤平¹・是枝伶旺²・前川隆則³・本村浩之⁴

Author & Article Info

¹ いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）
j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)
² 鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）
³ 株式会社前川水産（奄美市）
⁴ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 08 November 2023
Revised 11 November 2023
Accepted 12 November 2023
Published 13 November 2023
DOI 10.34583/ichthy.38.0_4

Jumpei Nakamura, Reo Koreeda, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2023. The Brownspeckled Yellow Bass *Liopropoma maculatum* (Epinephelidae: Liopropominae) from the Koshiki-shima Islands and Amami-oshima island: first records from Kagoshima Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 38: 4–7.

Abstract

Two specimens (155.4 and 179.3 mm standard length) of the Brownspeckled Yellow Bass *Liopropoma maculatum* (Döderlein, 1883) (Epinephelidae: Liopropominae) were collected from the Koshiki-shima Islands and Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan. The species is known only from Japan, Korea, and the Hawaiian Islands, and in Japanese waters, the species has been previously recorded from the Pacific coast from Sagami Bay to Tosa Bay, Okinawa Prefecture, the Kyushu-Palau Ridge, and the Ogasawara Islands. Thus, the present two specimens represent the first records of *L. maculatum* from Kagoshima Prefecture.

ハタ科ハナスズキ亜科 (Epinephelidae: Liopropominae) のハナスズキ属 *Liopropoma* Gill, 1861 は世界で 31 種、日本国内から 12 種が記録されている (Parenti and Randall, 2020; 中村・本村, 2022)。本属魚類は主に深場(一部は浅場)の岩礁域やサンゴ礁域に生息し、小型種であることに加えて、洞穴や岩の裂け目に潜む習性から採集されにくい分類群である (Randall and Taylor, 1988; Pinheiro et al., 2019)。そのため、ハナスズキ属魚類の標本が得られる機会は、漁業や遊漁での偶発的な釣獲やスキューバダイビングでの意図的な採集などに限られている (Randall and Taylor, 1988;

Koeda et al., 2015; 吉田ほか, 2018; Pinheiro et al., 2019; 中村・本村, 2020; 工藤ほか, 2022)。

2023 年 5 月に甌島列島で漁獲され鹿児島市の小売店で販売されていた 1 個体、2023 年 6 月に奄美群島の奄美大島で漁獲された 1 個体のハナスズキ属魚類が入手され、これらはハナスズキ *Liopropoma maculatum* (Döderlein, 1883) に同定された。ハナスズキは水深 100–400 m の岩礁域や海嶺に生息し、日本 (相模湾から土佐湾にかけての太平洋岸、沖縄県、九州–パラオ海嶺、および小笠原諸島)、朝鮮半島東岸南部、およびハワイ諸島からのみ報告されている分布記録の少ない種である (Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 2013; 工藤ほか, 2022)。そのため、2 標本は本種の鹿児島県における初めての記録となり、分布の知見の蓄積のために報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Randall and Taylor (1988) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真 (Fig. 1) に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Liopropoma maculatum (Döderlein, 1883)

ハナスズキ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 183432, 体長 179.3 mm, 甌島列島中甌島近海, 釣り, 2023 年 5 月 2 日に鹿児島市内の小売店で是枝伶旺が購入; KAUM-I. 185808, 体長 155.4 mm, 奄美大島 (名瀬港北方沖), 水深 320 m, 釣り, 2023 年 6 月 17 日, 採集者: 松崎孝洋, 奄美市名瀬港の市場で前川隆則が購入。

記載 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) は

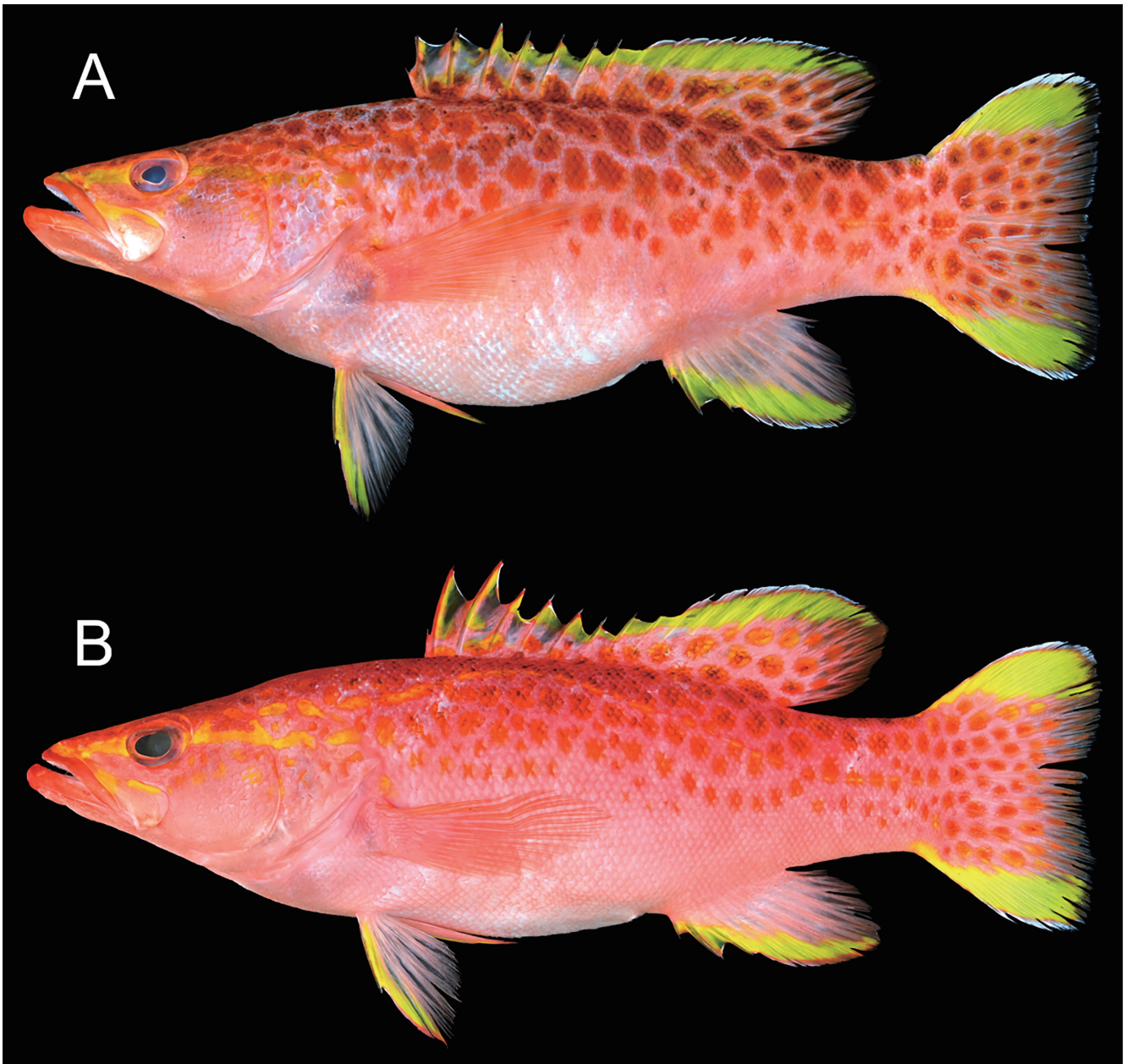


Fig. 1. Fresh specimens of *Liopropoma maculatum* from Kagoshima Prefecture, Japan (A: KAUM-I. 183432, 179.3 mm SL, Koshi-shima Islands; B: KAUM-I. 185808, 155.4 mm SL, Amami-oshima island).

Table 1 に示した。体は前後方向に細長く、やや側扁する。体高は低く、腹鰭と臀鰭起部の中間付近で最大。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて上昇し、そこから尾柄部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭と臀鰭起部の中間付近にかけて下降し、そこから尾柄部にかけて上昇する。尾柄は太くやや短い。口は端位で口裂は大きく、下顎先端は吻端より前方に突出する。上顎後端は眼の中央直下より後方に達する。眼は円形で、瞳孔は前方が尖る涙滴型。鼻孔は2対で、前鼻孔は吻端付近、後鼻孔は眼の前縁の前方に位置する。前鼻孔は管状の皮弁を有する。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁は概ね円滑であるが、前鰓蓋骨後縁の下部に細かい多数の鋸歯がある (KAUM-I. 185808 では鋸歯は不明瞭)。主鰓蓋骨の上部に3本の棘を有する。頭部全体、体側、および各鰭の基底部分は鱗に覆われ、体側鱗

は櫛鱗。側線は1本で、鰓蓋上方から尾鰭基部にかけての体側に位置する。側線は鰓蓋上端部から始まり、背鰭第5棘直下付近まで上昇し、そこから尾柄部まで下降し、尾柄部では体軸と平行にはしる。肛門は臀鰭起部直前に位置する。背鰭起部は鰓蓋後端よりも後方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上付近にそれぞれ位置する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端より前方に位置する。胸鰭後端は背鰭最終棘から背鰭第1軟条起部の下部に位置する。腹鰭起部は鰓蓋後端より前方に位置する。臀鰭起部は背鰭第3-4軟条起部直下付近に位置する。背鰭と臀鰭の軟条部の外縁は丸みを帯びる。尾鰭は後縁が僅かに湾入した截形。両顎には細かい円錐歯が密に並ぶ。鰓耙は棒状で細長い。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体側の地色は淡い赤色で、体背部は色味が濃く、腹部は色味が薄い。頭部

背面と体側上半部に不定形の赤色斑が密在する。赤色斑は体側の中央部のものほど大きい。吻端から鰓蓋後縁にかけて黄色縦線が眼を跨いでしる。頭部後半の上半部には不定形の黄色斑が散在する。側線の大部分は黄色を帯びる(体側後半部では地色と同色の側線鱗もあり、黄色部は不連続)。両顎は赤色であるが、上顎上縁は黄色を呈する。背鰭は地色が淡い赤色で、下半部に赤色あるいは黄色がかかる小斑が並び、上半部は明るい黄色、上縁部は白色。胸鰭は一樣に黄色がかかった赤色。腹鰭は淡い桃色で、前縁は黄色。臀鰭は淡い桃色で、下半部は黄色、下縁は白色。尾鰭は淡い赤色で、中央部には赤褐色小斑が密在し、上部および下部は黄色で、先端部は白色。尾鰭の後縁は黒色がかかる。

分布 日本、韓国(朝鮮半島東岸南部)、およびハワイ諸島に分布し(Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 2013; Parenti and Randall, 2020)、国内においては相模湾、駿河

湾、和歌山県、土佐湾、沖縄県、九州-パラオ海嶺、および小笠原諸島から散発的に記録されていた(宇井, 1925; Kamohara, 1952; Katayama, 1960; 尼岡, 1982; Randall and Taylor, 1988; Randall et al., 1997; 瀬能, 2013; 工藤ほか, 2022)。本研究において新たに鹿児島県の甌島列島と奄美大島から記録された。

備考 本研究で記載した2標本は、背鰭が1基で、背鰭鰭条数が VIII, 12 (KAUM-I. 185808 は IX, 11: 詳細は後述)、臀鰭軟条数が 8、胸鰭軟条数が 15-16、総鰓耙数が 18-19、前鼻孔が吻端近くにある、吻部と眼下部が被鱗する、尾鰭の後縁が僅かに湾入する、および体側の上半部に多数の赤色斑があることなどの特徴が Randall and Taylor (1988) や瀬能 (2013) が示したハナスズキ *Liopropoma maculatum* の標徴と一致したため本種に同定された。しかし、2標本の側線鱗数は 55 と 57 であり、インド・太平洋のハナスズキ属魚類の分類学的再検討をおこなった Randall and Taylor (1988) が示したハナスズキの値 (61-66) と異なった。Randall and Taylor (1988) の値は 6 個体の標本観察に基づくものであり、実際にはより広い変異幅をもつ可能性が高いと考えられることから、本研究ではこの差異を種内変異の範疇と判断し、本研究によって本種の側線鱗数は従来の知見よりも広い幅(55-66)をもつことが判明した。また、奄美大島産の KAUM-I. 185808 の背鰭鰭条数は 9 棘 11 軟条であり、Randall and Taylor (1988) が示したハナスズキの条数 (8 棘 12 軟条) と相違があった。このことは、インド・太平洋に分布する本種を含む全ての背鰭が 1 基のハナスズキ属魚類は背鰭棘数が 8 であることから (Randall and Taylor, 1988; Kon et al., 1999; Akhilesh et al., 2012; Pinheiro et al., 2019)、何らかの形態異常と判断した。

ハナスズキのこれまでの国内における分布記録は「分布」の項の通りであり、甌島列島と奄美大島から得られた 2 標本は、本種の鹿児島県における初めての記録となる。甌島列島産標本 (KAUM-I. 183432) は中甌島周辺で釣りにより漁獲され、水深情報は不明であるが、当該海域における漁業の操業状況から水深 100 m 以上の深場で漁獲されたものと考えられる。また、奄美大島産標本 (KAUM-I. 185808) は水深 320 m から釣りにより漁獲された。ハナスズキは国内において南日本の太平洋岸や島嶼域の深場、海嶺から散発的にのみ記録されており、国外においても分布記録の少ない稀種であり、その要因は本稿の冒頭で記述したように生息環境と体サイズに起因する採集されにくさにあると考えられる。本研究では偶発的に漁獲されたハナスズキ 2 個体から分布の空白域を埋める新知見が得られたが、本種をはじめとする深場に生息するハナスズキ属魚類の多様性や分布状況を解明するためには、深場における小型魚種の釣獲調査をおこなうなど積極的な採集調査の実施が望まれる。

Table 1. Counts and proportional measurements of *Liopropoma maculatum* from Kagoshima Prefecture, Japan.

	KAUM-I. 183432 Koshiki- shima Islands	KAUM-I. 185808 Amami- shima island
Standard L (SL; mm)	179.3	155.4
Counts		
Dorsal-fin rays	VIII, 12	IX, 11
Anal-fin rays	III, 8	III, 8
Pectoral-fin rays	16	15
Lateral-line scales	57	55
Gill rakers	6 + 13 = 19	6 + 12 = 18
Measurements (% SL)		
Body depth	33.6	28.8
Body width	13.6	14.3
Head L	39.6	40.7
Snout L	11.8	11.7
Orbit diameter	6.8	7.9
Interorbital width	7.0	7.1
Upper-jaw L	18.7	18.5
Caudal-peduncle depth	15.8	15.5
Caudal-peduncle L	17.3	12.3
Pre-dorsal-fin L	45.0	44.9
Pre-anal-fin L	70.9	68.6
Pre-pelvic-fin L	41.4	40.6
Dorsal-fin base L	41.2	41.2
1st dorsal-fin spine L	4.4	4.1
2nd dorsal-fin spine L	8.0	11.5
3rd dorsal-fin spine L	8.6	13.4
Longest dorsal-fin spine L	9.8 (4th)	13.4 (3rd)
Longest dorsal-fin ray L	17.4 (8th)	18.8 (6th)
Anal-fin base L	13.8	13.9
1st anal-fin spine L	4.1	3.7
2nd anal-fin spine L	8.6	7.5
3rd anal-fin spine L	9.8	9.0
Longest anal-fin ray L	18.4 (4th)	18.0 (4th)
Caudal-fin L	25.0	23.2
Caudal concavity	2.9	3.3
Pectoral-fin L	27.6	26.9
Pelvic-fin spine L	9.6	10.1
Pelvic-fin L	18.3	18.7

L: length

謝 辞

本稿執筆に際し、魚楽イサムの野添 勇氏と現金問屋あけぼの騎射場店のみなさまには甌島列島産標本の入手にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同博物館のボランティアのみなさまには標本の登録・管理にご協力いただいた。Ichthy 編集委員の宮本 圭氏には本稿に対して適切な助言を賜った。上記の方々には深く感謝申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環としておこなわれた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- Akhilesh, K. V., K. K. Bineesh and W. T. White. 2012. *Liopropoma randalli*, a new serranid (Teleostei: Perciformes) fish from the Indian Ocean. *Zootaxa*, 3439: 43–50.
- 尼岡邦夫. 1982. *Chorististium maculatum* (Döderlein) ハナスズキ, pp. 220–221. 岡村 収・尼岡邦夫・三谷文夫 (編) 九州-パラオ海嶺ならびに土佐湾の魚類. 日本水産資源保護協会, 東京.
- Kamohara, T. 1952. Revised descriptions of the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Shikoku, Japan. *Reports of the Kochi University. Natural Science*, 3: 1–122.
- Katayama, M. 1960. *Fauna Japonica, Serranidae (Pisces)*. Tokyo News Service, Ltd., Tokyo. 189 pp.
- Koeda, K., S. N. Chiba and H. Motomura. 2015. First Japanese specimen-based record of *Liopropoma tonstrinum* (Teleostei: Serranidae), from Minami-daito Island, Daito Islands, southern Japan. *Species Diversity*, 20: 19–22. [URL](#)
- Kon, T., T. Yoshino and Y. Sakurai. 1999. *Liopropoma dorsoluteum* sp. nov., a new serranid fish from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 46: 67–71.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142. [URL](#)
- 本村浩之 (編). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 中村潤平・本村浩之. 2020. 鹿児島湾から得られたハタ科魚類の稀種フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* の記録. 鹿児島大学水産学部紀要, 68: 19–23. [URL](#)
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43. [URL](#)
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2020. An annotated checklist of the fishes of the family Serranidae of the world with description of two new related families of fishes. *FishTaxa*, 15: 1–170. [URL](#)
- Pinheiro, H. T., B. Shepherd, B. D. Greene and L. A. Rocha. 2019. *Liopropoma incandescens* sp. nov. (Epinephelidae, Liopropominae), a new species of basslet from mesophotic coral ecosystems of Pohnpei, Micronesia. *ZooKeys*, 863: 97–106. [URL](#)
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: 1–73, pls. 1–19.
- Randall, J. E. and L. Taylor. 1988. Review of the Indo-Pacific fishes of the serranid genus *Liopropoma*, with descriptions of seven new species. *Indo-Pacific Fishes*, 16: 1–47, pls. 1–4.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 752–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 宇井縫蔵. 1925. 紀州魚譜. 紀元社, 東京. 281 + 44 pp. [URL](#)
- 吉田朋弘・栗岩 薫・本村浩之. 2018. 火山列島から得られたハタ科魚類の稀種モモハナスズキ *Liopropoma pallidum* の記録. 魚類学雑誌, 65: 67–70. [URL](#)